

目標達成計画

作成日: 平成 24年 10月 8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---|--|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 1 | 理念の共有と実践 職員が理念に掲げられた言葉の意味をよく理解し、日々の支援の中で、理念が具体的なものとして実践につながるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 職員会議で理念を復唱し、いつも念頭におく努力をする。 入居者全員にとって、終の棲家として居心地のよいそして尊重される存在で居ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 職員会議の始めに、理念の4項目を復唱する。 高齢者を一人の人間として尊重する意識をもつ。 それぞれの能力に応じて、出来ることを暮らしの中で体験してもらうように努める。 声かけ・会話を多くするよう努める。 ラクターヨガを取り入れる。 | 6ヶ月 |
| 2 | 6 | 身体拘束をしないケアの実践 身体拘束の定義について学び、その方法・選択肢を広げ、拘束期間・時間等本人の負担を軽減できるよう考え、身体拘束を極力少なくするケアを実践する。 | <ul style="list-style-type: none"> 入浴時及び日没以後は、鍵を使用しない留め具(ストッパー)を行ない、それ以外は施錠しないようにする。 家族が来ている時には(外出したがないので)施錠しない。 (運営推進会議における家族の代表は、本人の安全のために施錠してほしいと言う。) | <ul style="list-style-type: none"> 施錠していなければ出て行こうとする入居者が居るが、必ず後をついてゆくようにする。 危なくないように気をつける。 | 3ヶ月 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|--|-----|
| 3 | 2 | <p>事業所と地域とのつき合い 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、更に能動的に地域に働きかけることにより、地域で重要とされる役割を担っていけるよう、積極的に働きかけていく。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・行事を行う時には、参加を呼びかける。 ・認知症について知りたいと思う時、遠慮なく訪問していただけるよう声かけをする。 (寒暑が厳しく散歩に出掛けられる時間が限られている。) | <ul style="list-style-type: none"> ・散歩等で地域の人に会った時、できるだけ対話を心掛け、交流が密に行えるよう努力する。 ・運営推進会議(外部から区長2名・民生委員3名・他3名の参加)において ア:地域の方にボランティアとして出来ること(話し相手・見守り・遊ビリテーションのリーダー等)を伝え、協力していただけるようお願いする。 イ:施設で出来ること(認知症の介護方法等)について伝え、それを求めてもらえるようお願いする。 | 6ヶ月 |
|---|---|---|---|--|-----|

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。